

第 57 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日時：2024 年 3 月 7 日(木) 16:00～18:30

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構会議室及びオンライン

1. 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会の議論の進捗状況について

燃料デブリ取り出し工法評価小委員会更田委員長から、これまで 12 回の小委員会で検討を重ねて取りまとめた報告書の内容について、主に以下のとおり説明があった。

○気中工法と気中工法オプションの組み合わせによる設計検討・研究開発を開始すること。

それと、併行して小規模な上アクセス等による内部調査を進め、水遮蔽の機能を活用した工法についても検討を行うこと。

廃炉等技術委員及び海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

○当初決定した事項に固執することなく、必要に応じて方針の見直しを実施し、最適な方法を模索しながら進めることが重要である。

○OPCV の内部状況に不確かさがあるため調査を進めることが重要とのことだが、耐震性や安全対策も含めた検討を進め、その内容について定期的に小委員会へ報告し、継続して議論を深めることが重要である。

○燃料デブリ取り出しに関する準備を進める際には、放射能に汚染されたダストの飛散によって環境へ影響が生じることがないように、安全対策には十分に注意すること。

○取りまとめた報告書の内容を正しく受け止めてもらうためには、どのような検討を経てこの結果に至ったのかについてのコミュニケーションプランを準備し、地元や関係者へ丁寧に説明することが肝要である。

2. 廃炉中長期実行プラン2024(案)について

東京電力ホールディングスから廃炉中長期実行プラン 2024(案)について、主に以下のとおり説明があった。

○廃炉中長期実行プラン 2023 から、当該年度の実績を踏まえて見直しを行い、廃炉中長期実行プラン 2024(案)を作成した。具体的には当該年度の廃炉作業の進捗の明示、見通しが立った計画の追加及び新たに判明した課題を踏まえた工程見直しの反映を行った。

今回の改訂のポイントは以下のとおり。

- ・全般 NRA リスクマップの反映
- ・汚染水対策 極力パッシブな管理を目標とした対策計画の策定工程の追加
- ・燃料デブリ取り出し 試験的取り出し着手時期の反映、原子炉格納容器内部調査の具体化
- ・その他 耐震重要施設周辺の斜面对策工程の追加、新設 ALPS/RO 設置工程の追加

廃炉等技術委員及び海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

- 海域モニタリングの記載について、放射性物質が検出されていないことと、検出限界を超えていないことは全く異なる意味を持っている。誤った情報を発信すると地元や関係者からの信頼を失いかねない事態に陥る場合もあるもので、正しい情報の発信となるよう注意することが肝要である。
- 放射能の濃度管理手法について、事業者と規制当局との間で認識にギャップが生じていることから、早めに意思疎通をすることが望ましい。
- 汚染水対策として、極力パッシブな管理を目標とした対策を志向していくということが何を意図しているのか分かりづらい。意図していることが正しく伝わる記載となるよう工夫をすること。

2. 廃炉等実施計画書及び取戻し計画について

東京電力から廃炉等実施計画書（以下「実施計画書」という。）案及び廃炉等積立金の取戻しに関する計画（以下「取戻し計画」という。）案について主に以下のとおりに説明があった。

- 実施計画書案については、廃炉中長期実行プラン 2024(案)に基づき、作成した。
- 取戻し計画案については、そのうち至近 3 ヶ年の廃炉作業に必要な資金を計上した。

機構から取戻し計画案について主に次のとおりに説明があった。

- 取戻し計画案については、取戻し計画の作成方針に則り、今後 3 年間に必要な廃炉作業計画が適正に盛り込まれていることが確認された。

廃炉等技術委員及び海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会からの報告書の内容を踏まえ、東京電力として今後どのように検討を進めていくのかについて実施計画書へ明記すること。
- 取戻し計画案の2024年度の金額が昨年度の取戻し計画の金額より減額となっているものの、この減額については追加の検討が必要で時期の見直しを実施したことによる減であり、廃炉作業に必要な資金は取戻し計画案へ適切に反映されていると理解した。今後も廃炉作業に遅れを生じさせないよう、必要な資金を取戻し計画へ適切に反映すること。

取戻し計画案について、委員からの意見を踏まえた修正は委員長に一任の上、東電及び機構から経済産業大臣に承認申請を行うことについて同意された。

3. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、ALPS 処理水の放出状況、2 号機燃料デブリの試験的取り出し、1 号機 PCV 内部調査（気中部調査）、高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えいに係る原因と対策について説明があった。

以 上